

堺屋太一氏の『団塊の世代』以降、私たちには団塊世代という冠がつけました。まずは圧倒的な人数が前代未聞。高校時代には1学年で500人以上にも膨らみ、受験競争も高度成長もバブル景気なども体験した、良くも悪くも団塊世代です。

当然ながら先生も、それも新卒先生が多かった時代です。年齢が近いせいもあって、皆、親しみを覚えました。

私がお世話になった英語の先生は、山椒は小粒のごとくピリッと辛い
が凛とした、とても可愛らしい先生。短い任で

団塊の風景

フリーランスアナウンサー 今尾ひな子

家庭に入られました。その恩師には、私も後々も影響を受けました。毎年、夏に高校の学年

と、名古屋駅でバツタリ。先生は、英語のレッスンに行かれる途中で。教えるのでなく、教えられに、です。「英語は少し離れると鈍るから続けな」とね」と。その姿勢に、驚きと感銘を受けました。

それ以来、私も放送大学などで常に新規の学びを取り入れています。卒業後にも恩師の影響を受けるものですね。私だけでなく、同期の仲間も、何がしかの学びを続けて

いる人が少なくありません。団塊魂でしょうか。同窓会が開かれます。幹事の骨折りで一割ほどが集い、卒業後初めてという人もいます。校歌はうる覚えでも、ヒット曲「高校3年生」は誰もが歌えないとね」と。泣いた日もあったが過ぎてしまえば、頑張ったね、と、ワッハッハ!

